

平成30年度
墨田区区民行政評価委員会
報告書

平成31年1月

目次

I 区民行政評価委員会概要	2
II 審議結果	9
基本目標Ⅰ 「すみだ」らしさの息づくまちをつくる	10
基本目標Ⅱ 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる	15
基本目標Ⅲ 新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる	18
基本目標Ⅳ 安心して暮らせる「すみだ」をつくる	21
基本目標Ⅴ 区民と区が協働で「すみだ」をつくる	38
III 委員感想	43

I 区民行政評価委員会概要

1 委員会の目的

施策評価の精度を高め、より客観的な行政評価制度の構築するため、基本計画で設定している施策の成果指標が達成度を測る上で適切な指標であるかを評価するとともに、より政策効果をより客観的に把握できる指標についての研究を行う。なお、評価結果・研究結果については平成32年度の基本計画の改定に反映させる。

2 委員会で審議する内容

① 施策の目的を数値化したものが成果指標となっているかの確認

当該施策が目指す墨田区の10年後の姿について、施策の対象（例えば児童・高齢者・街の様子など）が10年後にある状態になっているという記述で表されており、施策の対象者がある状態となっていることを数字で示したものが「施策の成果指標」として設定している。その指標について、数字が上昇したことで10年後の「すみだ」の姿が達成したといえるか、他の施策の目的と重複していないかなどについてチェックを行う。

② 施策の事業の進捗が反映される指標かどうかの確認

当該施策の目標を達成させるために実施する事業の結果が、指標の変動に直結しているかどうかをチェックする。（例えば指標が景気や国制度など外部要因で大きく変動するものであると事業の成果がでたとは言えなくなるので適切な指標とは言えない。）

③ より適切に成果を把握できる指標についての提言

上記を確認のうえ、各施策の達成度を測る指標として、より目標に直結するもの、より客観的であるもの、より外部要因の影響をうけないもの、より区民にわかりやすいもの等について必要に応じて提言する。

3 施策一覧

政策・施策	施策の達成をはかる指標	現状値	中間目標値 (32年度)	最終目標値 (37年度)
111 郷土の歴史・文化を継承し、発展させる	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合	71.6%	77.0%	80.0%
	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合	24.1%	39.0%	50.0%
112 すみだの新しい文化・芸術を育てる	「過去1年間に文化・芸術活動に参加した」区民の割合	16.0%	25.0%	30.0%
	区内アーティスト・文化芸術団体及び施設の「すみだ文化芸術情報サイト」登録数	139件	180件	200件
121 すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる	墨田区観光協会のホームページ年間訪問者数	323,985人	335,000人	350,000人
	区内を訪れる観光客数(観光関連施設入込客数及びイベント入込客数)	9,097,423人	9,800,000人	10,000,000人
122 区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	観光客による区内観光施設等の平均立寄り地数	2.93箇所	3.5箇所	4.0箇所
	墨田区における来訪者の観光消費額推計	約4,110億円/年	約4,500億円/年	約4,750億円/年

政策・施策	施策の達成をはかる指標	現状値	中間目標値 (32年度)	最終目標値 (37年度)
123 訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度	80.3%	83.0%	85.0%
	まち歩きガイドツアー参加者数	4,374人	4,600人	4,800人
131 t地域ごとの特色を活かしたまちなみをつくる	「墨田区のまちなみが美しい」と思う区民の割合	42.1%	47.0%	52.0%
	電線類の地中化整備延長	6,915m	7,955m	8,670m
132 水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	「墨田区の公園や水辺を日常的に利用している」区民の割合	43.8%	50.0%	60.0%
	緑被率	11.4% (※推計値)	12.20%	13.0%
211 職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める	「地域の特色を活かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	47.2%	50.0%	53.0%
	地区整備計画策定面積	85.9ha	97.0ha	99.01ha
212 多様な世帯に対応した、魅力的な住環境を形成する	「墨田区の住環境は良好だ」と思う区民の割合	56.7%	60.0%	65.0%
	「墨田区にずっと住み続けたい」区民の割合	41.3%	50.0%	60.0%
221 主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する	「主要駅(錦糸町・両国・押上・曳舟)周辺が、住み、働き、憩うことのできる便利でにぎわいのある地域となっている」と思う区民の割合	72.9%	75.0%	80.0%
	「歩いて行ける範囲に商店・医院・公益施設などがあり、日常の用事が足せている」区民の割合	82.2%	83.0%	85.0%
222 安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	道路バリアフリー整備延長	10,290m	13,080m	14,630m
	「区内の交通環境に満足している」区民の割合	79.0%	82.0%	85.0%
311 グローカルに活躍できる人材を育て、技術・技能を継承・発展させる	フロンティアすみだ塾への参加者累計数	137人	187人	237人
	地域内事業承継支援事業における支援累計数	71件	171件	271件
312 新規参入・異分野との連携・融合を促進し、次代のものづくりを育む	チャレンジ支援資金の融資あっせん累計件数(これから開業する者及び開業から1年未満の者)	73件	425件	900件
	「ゼロから始めるすみだ起業新規事業ゼミ」受講後の開業者総数	49人	97人	137人
313 「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする	すみだ地域ブランド戦略ホームページの延べアクセス件数	4,840件/月	7,500件/月 (31年度平均)	10,000件/月 (36年度平均)
	区内製造業における付加価値額	149,157百万円	160,000百万円	170,000百万円
321 消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める	「区内になじみの店がある」区民の割合	75.1%	78.0%	80.0%
	区内小売等付加価値額	2,947億円	3,241億円	3,500億円
322 地域の資源を活かした、特色ある商業空間を創出する	「誰かを誘って食事や買い物をしたい場所が区内にある」区民の割合	69.8%	75.0%	80.0%
	小売吸引力指数	0.83	0.97	1.12
331 誰もが能力を発揮できるよう就労支援を展開する。	「仕事をすることで、充実した生活を送れている」区民の割合	73.2%	76.6%	80.0%
	区の雇用促進・就労支援事業による就職決定者数	381人	400人	420人
411 災害に強い安全なまちづくりを進める	建築物の不燃化率(南部・北部別)	(南部)82.5% (北部)57.4%	(南部)85% (北部)62%	(南部)87% (北部)64%
	住宅の耐震化率(南部・北部別)	(南部)92.0% (北部)85.3%	(南部)95% (北部)95%	(南部)98% (北部)98%
412 地域で連携し、様々な災害に対する防災行動力を高める	「家庭で災害時の備えができていない」区民の割合	52.2%	65.0%	70.0%
	住民防災組織等を担う防災関係団体人数	6,542人	7,500人	8,500人

政策・施策	施策の達成をはかる指標	現状値	中間目標値 (32年度)	最終目標値 (37年度)
413 地域で連携し、犯罪抑 止力・対応力を高める	体感治安について肯定的評価をした 区民の割合	18.4%	22.0%	26.0%
	刑法犯の認知件数	3,370 件	3,200 件	2,800 件
421 福祉に対する理解を 深め、地域活動への参加を 促す	「現在ボランティア活動・地域活動をして いる」区民の割合	14.2%	20.2%	25.0%
	小地域福祉活動・ふれあいサロン等実 践地区数	44 地区	80 地区	110 地区
422 利用者のニーズにあつ た地域福祉サービスの質と 量の向上を図る	「必要な福祉サービスが適切に提供さ れている」と思う区民の割合	51.2%	60.0%	70.0%
	市民後見人養成研修修了者数・市民 後見人受任者数累計	(研修修了者) 46 人 (後見人等 受任件数) 25 件	(研修修了者) 121 人 (後見人等 受任件数) 75 件	(研修修了者) 196 人 (後見人等 受任件数) 125 件
423 生活に困った人を支 え、自立を促す	社会促進事業におけるボランティアへ の年間参加人数	472 人	510 人	550 人
	就労阻害要因のない単身世帯の就労 率	45.5%	50.0%	55.0%
424 消費者の自立を支援 し、安心・安全な消費生活 を守る	「消費者講座の受講等、日ごろから消 費者被害に遭わないための取組を行 っている」区民の割合	12.1%	15.0%	18.0%
	「消費者被害に遭わないために必要な 情報が適切に提供されている」と評価 する区民の割合	38.3%	42.0%	45.0%
431 元気で生きがいに満 ちた高齢期の暮らしを支援 する	「生きがいがある」65 歳以上の区民の 割合	71.1%	73.0%	75.0%
	シルバー人材センター就業延べ人員 及び実就労者数	(延べ人員) 182,343 人 (実就労者) 1,370 人	(延べ人員) 183,000 人 (実就労者) 1,400 人	(延べ人員) 184,000 人 (実就労者) 1,450 人
432 高齢者の自立した生 活を支援する	「何らかの介護予防事業を利用したこ とがある」65 歳以上の区民の割合	25.3%	35.0%	50.0%
	介護認定を受けていない 65 歳以上の 区民の割合	81.9%	81.5%	78.0%
433 高齢者の地域包括ケ アを進める	「地域で介護について相談できる環境 が整っている」と思う区民の割合	40.8%	52.0%	68.0%
	認知症サポーターの数	6,000 人	12,000 人	25,000 人
434 高齢者が安心して地 域で暮らし続ける環境をつ くる	「高齢になっても墨田区内で暮らし続 けることができる」と思う区民の割合	60.7%	63.0%	65.0%
	介護老人福祉施設入所待機者数	629 人	450 人	240 人
441 障害者の自立した生 活を支援する	区内障害者グループホーム居室数	146 室	160 室	175 室
	自立支援給付支給決定者数	1,523 人	1,750 人	1,930 人
442 障害者の社会参加を 支援し、生きがいを創出す る	福祉施設から一般就労への移行者数	22 人	32 人	37 人
	すみだ障害者就労支援総合センター・ 就労支援登録者の離職者数	29 人	27 人	25 人
451 区民みずからが健康 に暮らせるしくみをつくる	年に1回健康診査を受診する割合(20 歳以上)	83.9%	87.0%	90.0%
	65 歳健康寿命(男女別)	(男性) 81.8 歳 (女性) 85.2 歳	(男性) 82.0 歳 (女性) 85.5 歳	(男性) 82.8 歳 (女性) 86.2 歳
452 すべての親と子の切 れ目ない健康づくりを支援 する	「健康維持・健診等の母子保健サー ビスが充実している」と思う区民の割合	67.6%	70.0%	75.0%
	こんにちは赤ちゃん訪問実施率	88.4%	90.0%	95.0%
453 保健衛生における安 全と安心を確保する	「身近なAED設置場所を知っている」 区民の割合	47.9%	60.0%	80.0%
	帰宅時と食事前どちらも手を洗って いる割合(対象 20 歳以上)	46.3%	80.0%	95.0%

政策・施策	施策の達成をはかる指標	現状値	中間目標値 (32年度)	最終目標値 (37年度)
454 地域の連携を深め、保健医療体制を確立する	かかりつけ医等を持つ区民の割合	(かかりつけ医) 58.7% (かかりつけ 歯科医) 64.4% (かかりつけ 薬局) 46.6%	(かかりつけ医) 70% (かかりつけ 歯科医) 70% (かかりつけ 薬局) 50%	(かかりつけ医) 80% (かかりつけ 歯科医) 80% (かかりつけ 薬局) 60%
	在宅医療の満足度	40%	50%	60%
461 必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる	「子育てしやすいまち」と思う区民の割合	57.1%	61.0%	65.0%
	0歳児から5歳児までの保育定員の整備率	49.0%	53.0%	55.0%
462 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	「地域のなかで子どもたちが健やかに成長している」と思う区民の割合	67.8%	70.0%	75.0%
	学童クラブの待機児童数	115人	0人	0人
463 支援が必要な子ども・若者が安心して暮らせるしくみをつくる	「児童虐待を疑ったときの通報先を知っている」区民の割合	26.7%	37.0%	50.0%
	「子どもに必要な支援が行き届いている」と思う区民の割合	45.5%	50.0%	60.0%
471 意欲をもって学び、協働的に課題解決できる確かな学力を育む	学習意識調査で「いつも、こつこつ学習している」と回答している小学校6年生及び中学校3年生の割合	(小学6年) 61.5% (中学3年) 48.8%	(小学6年) 65.0% (中学3年) 54.0%	(小学6年) 70.0% (中学3年) 60.0%
	区学習状況調査で各教科の調査結果が「DまたはE」(学力低位層)になった小学校6年生及び中学校3年生の割合	(小学6年) 国 33.3% 社 48.4% 算 39.4% 理 37.5% (中学3年) 国 35.1% 社 54.4% 数 39.8% 理 2.9% 英 38.6%	(小学6年) 国 28.0% 社 33.0% 算 28.0% 理 33.0% (中学3年) 国 28.0% 社 40.0% 数 34.0% 理 43.0% 英 34.0%	(小学6年) 国 25.0% 社 30.0% 算 25.0% 理 30.0% (中学3年) 国 25.0% 社 35.0% 数 30.0% 理 35.0% 英 30.0%
472 子どもの個性を活かし、健やかな心とからだを育てる	学習意識調査で「学校に行くのが楽しい」と回答している小学校6年生及び中学校3年生の割合	(小学6年) 79.3% (中学3年) 73.7%	(小学6年) 82.0% (中学3年) 75.0%	(小学6年) 85.0% (中学3年) 78.0%
472 子どもの個性を活かし、健やかな心とからだを育てる	新体力テストの結果(合計点)	(小5男) 54.4	(小5男) 56.2	(小5男) 56.5
		(小5女) 56.1	(小5女) 56.3	(小5女) 57.0
		(中2男) 41.2	(中2男) 41.6	(中2男) 42.0
		(中2女) 47.7	(中2女) 48.7	(中2女) 49.0
473 地域に開かれた魅力ある学校環境をつくる	「区立小中学校が地域と十分に連携している」と評価する区民の割合	44.4%	50.0%	55.0%
	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	69.7%	90.0%	95.0%
474 家庭の教育力向上と、地域で子どもを育てるしくみをつくる	「地域での子どもの健全育成活動に参加している」区民の割合	16.5%	18.0%	20.0%
	「家庭教育を実践できている」区民の割合	74.8%	77.0%	80.0%
481 地域にやさしい、環境に配慮した暮らしを共に創る	墨田区における温室効果ガス総排出量の削減割合	12年度比 +8.9%	-20.00%	-25%
	環境ボランティア登録者の実働割合	66.70%	71%	75%
482 環境の保全や改善につとめる	騒音・振動に関する区民の環境評価点	-0.32	-0.28	-2.0
	苦情があった特定建設作業の割合	11%	8%	5%
483 廃棄物を減らし、循環型社会を実現する	区民1人1日あたりのごみ排出量	585g	520g	515g
	資源化率の向上	20.1%	23.0%	25.0%

政策・施策	施策の達成をはかる指標	現状値	中間目標値 (32年度)	最終目標値 (37年度)
511 地域や多様なコミュニティを支える人材・団体を育てる	「過去1年間に地域の行事や社会活動に参加した」区民の割合	38.0%	46.0%	50.0%
	町会・自治会加入世帯数	95,375 世帯	98,300 世帯	100,500 世帯
512 地域や多様なコミュニティを育む場や機会を増やす	「地域の交流や様々な活動をする場や機会が提供されている」と思う区民の割合	71.5%	75.0%	80.0%
	コミュニティ施設の利用者数	409,546 人	415,000 人	420,000 人
513 地域コミュニティのなかで、外国人も暮らしやすい環境をつくる	道路案内標識の英語表記化率	67.00%	100%	100%
	通訳・翻訳ボランティア登録者数	38 人	80 人	100 人
521 区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合	38.1%	40.0%	42.0%
	「身近な場所で学習活動ができる」と思う区民の割合	52.0%	53.5%	60.0%
522 区民が自由にスポーツを楽しむ機会をつくる	「週に1回以上運動・スポーツをしている」成人区民の割合	38.6%	45.0%	50.0%
	「いつでもスポーツを楽しむことができる環境が整備されている」と思う区民の割合	49.9%	55.0%	58.0%
531 人権教育・啓発を進める	「日常生活で差別がある」と思う区民の割合	41.1%	38.0%	35.0%
	「人権が尊重されている社会である」と思う区民の割合	73.4%	75.0%	78.0%
532 男女共同参画を推進する	「男女共同参画が進んでいる」と思う区民の割合	49.2%	55.0%	60.0%
	「家庭や社会での役割が、性別で固定されている」と思う区民の割合	65.6%	62.5%	60.0%
533 国際理解を深め、平和への意識を高める	「過去1年間に外国人とコミュニケーションを行う機会があった」区民の割合	44.8%	55.0%	65.0%
	「地域で平和の重要性や戦争体験を語り継ぐことが重要だ」と思う区民の割合	91.6%	95.0%	100.0%
541 情報を戦略的に発信し、多様な主体と共有する	「自分にとって必要な区の情報が入手できている」区民の割合	52.9%	60.0%	70.0%
	「墨田区ホームページ訪問者数」	15,904,068 人	20,000,000 人	22,000,000 人
542 区政への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する	「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合	9.5%	20.0%	30.0%
	区政全般に対する区民の満足度の点数	57.4 点	65 点	70 点

4 委員構成

選出区分	氏名	備考
会長	倉阪 秀史	千葉大学教授
副会長	高橋 晶子	新日本有限責任監査法人(公認会計士)
委員	小林 亮太	東日本金属株式会社 常務取締役
	佐原 滋元	NPO法人向島学会理事長、観光協会理事
	野原 健治	社会福祉法人興望館 常務理事
区側参加者	岸川 紀子	企画経営室長

4 開催状況

【第1回】平成30年8月6日 午後1時30分～午後4時
委嘱式、説明（基本計画における施策の成果指標について）

【第2回】平成30年9月3日 午後1時30分～午後4時
基本目標Ⅰ 施策111～132
基本目標Ⅱ 施策211～222
基本目標Ⅲ 施策311～331

【分野】文化・観光・景観・街づくり・産業

【第3回】平成30年10月1日 午後1時30分～午後4時
基本目標Ⅳのうち施策421から463まで

【分野】福祉・子育て・保健

【第4回】平成30年11月5日 午後1時30分～午後4時
基本目標Ⅳのうち施策411～413、施策471～483
基本目標Ⅴ 施策511～542

【分野】防災・教育・環境・地域コミュニティ・生涯学習

5 報告書について

本委員会はより適切な成果指標を設定するための助言を目的としており、指標の良し悪し等についての判定は行っていない。

従って、この報告書では、委員会としての統一した意見の取りまとめは行わず、各委員の意見を尊重し、全ての意見を併記している。なお、報告書は施策単位で編集しており、複数の施策にかかわる意見については、各施策に再掲している。

II 審議結果

施策 111 郷土の歴史・文化を継承し、発展させる

■指標の設定について

- ・「伝統文化が保護、継承されている」とはどのような状況なのか、伝統文化なのか、文化財が大切に保護されている状態なのか定義が曖昧でわからない。
- ・「区民アンケート」の質問が個人の情緒を問うものであり、個人の主観により回答が左右されるため指標にはならない。
- ・「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合のうち、指標の設定基のアンケートで「どちらかといえばそう思う」という回答を「伝統文化が保護、継承されていると思う」区民の割合に含まれているが含めてしまってよいのか疑問がある。数値のとらえ方としては楽観的ではないか。
- ・区民アンケートから指標の設定をしているが、客観的な指標が欲しい。文化財の数や、継承すべきものを数値化し、それが豊かになっていくというように客観指標と主観指標を組み合わせるような形が望ましい。
- ・「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合について、アンケートでは「あなたは墨田区の歴史や文化についてもっと学びたいと思いますか」という質問となっており、質問の意図と指標の内容がずれている。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・文化財の収集保管というものがどの程度進んでいるか、それに対して理解度はどれくらいなのか等を指標にすると適した指標になる。
- ・旧安田庭園等は、関東大震災や明治周辺以降、東京にとって非常に重要な歴史であり、東京の産業革命、明治政府を産業で支えた場所である。施策として注目した方がいい。そういうことを指標に設定できるような調査を行ってはどうか。
- ・古くから墨田区に住む人達の割合や新たに墨田区に来た人たちの割合がどの程度かということも施策を考えるうえで大切になる。伝統を継承していくためには、古くから墨田区に住む人が伝えることや新たに墨田区に来た人たちに墨田区の歴史を知ってもらうことが大事である。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・歴史についての質問で南部と北部で回答の数値が違う。北部が低い理由としては、北部の歴史的資産はほとんど防災団地の中にあり、目立たないからではないか。墨田区として区民に紹介することも必要ではないか。都の場所・区の場所を分けることなく、歴史資源を表に出す努力をしてほしい。

施策112 すみだの新しい文化・芸術を育てる

■指標の設定について

- ・「過去1年間に文化芸術活動に参加した」区民の割合、アンケートを基に設定された指標であるが、「参加した」「しない」を選択する設問となっており、一度でも参加すれば「した」になってしまうので、それでいいのか疑問がある。回数を聞くような設問のほうがよい。
- ・文化芸術への関わりが深まり、そこから新しいものが創造されていくという状態を、単純に「参加した・しない」という指標では測れない。
- ・「区民アンケート」の質問が個人の情緒を問うものであり、個人の主観により回答が左右されるため指標にはならない。
- ・ホールの来客数等は客観的な指標で捕えることができるかもしれない。「すみだ文化芸術情報サイト」の登録数では因果関係に、やや疑問がある。

■目標値の設定について

- ・区内アーティスト・文化芸術団体及び施設の「すみだ文化芸術情報サイト」登録数は目標を表すものとしては少ない。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・「10年後のすみだ」の姿の文章はあまりイメージがわからない。もう少し具体的な表現がよい。
- ・「新しいすみだの文化・芸術が創造されている」というのは、新しいものを期待して記載されていると思うが、どういう姿を描いているのかイメージできない。

施策 121 すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる

■指標の設定について

- ・所管課データを基に指標の設定がされているので、客観的で納得できる指標であると感じる。
- ・墨田区には寺社仏閣や隅田川文学、関東大震災を乗り越えてきた歴史等があり、それらを振り返りながら指標を設定することが大事である。

施策 122 区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる

■指標の設定について

- ・東京スカイツリーの集客力を活用し、区内全域の回遊性を高めていくことが課題として、区内観光施設等の平均立ち寄り地数を指標としているが、観光客のスケジュール等により前後してしまい指標として妥当性に疑問。回遊性を測るような効果を測定できる指標等の検討が必要。
- ・所管課データを基に指標の設定がされているので、客観的で納得できる指標であると感じる。

施策 123 訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる

■指標の設定について

- ・所管課データを基に指標の設定がされているので、客観的で納得できる指標であると感じる。
- ・「外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度」というターゲットを「外国人」に限定した指標となっているが、国内の観光客も対象にした指標とすべきだと思う。
- ・本区には寺社仏閣や隅田川文学、関東大震災を乗り越えてきた歴史等があり、それらを振り返りながら指標を設定することが大事。
- ・国際観光都市という観点から、外国の人の目から見て、すみだがどのように映っているのか、たとえば外国人がよく使用するウェブサイトの中で、どのように扱われているのかというものを把握することが大事。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・「水辺の活用」という意味では、防災団地に古代から「すみだの渡」があるので、東京都等との協働で活かしてほしい。
- ・「訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる」としているが、おもてなしをする迎える側の人がすごく大切になると思う。
- ・東京スカイツリーに「登る」ことがキーとなっているが、「眺める」等へも施策を展開させたほうが今後につながる。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・本計画策定時には想定外の民泊問題が発生している。民泊には様々な意見があり、そういう意見をどのように施策に反映させたらいいかは難しい。
- ・まち歩きガイドツアーはこの施策にとって重要である。
- ・10年後には、いまの子どもたちが迎える側の主役になりうると思うため、子供たちが外国人をおもてなしする機会を増やすという人づくり的な施策の取組も大事。

施策131 地域ごとの特色を活かしたまちなみをつくる

■指標の設定について

- ・指標「電線類の地中化整備延長」は非常に個別具体的な指標であり、客観的な指標となるかは疑問がある。事務事業の指標のイメージがあり、施策の指標としてはもう少し大きい観点がよい。
- ・施策の目標として美しいまちなみを掲げているが、建物が増えたりキレイになったりすることだけではなく「小奇麗」であることが大事。掃除が行き届いているとか、玄関先の植木が手入れされているとか何か心遣いが町の中にあふれていることが大事。ソフト面や考え方が大事である。
- ・アンケート調査を指標に多く取り入れているが、墨田区の取り組みや特徴をとらえるために、区民に伝わっているかどうかを質問項目にしたほうが良い。
- ・「地域ごとの特色」を活かすという以上は、「地域の特色」を捉える必要がある。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・関東大震災頃の質の高い昭和初期の木造建築があるが、そんなに古くはないので、文化財登録等はしていないが、すみだらしい景観というので、消えてしまってよいものか考える必要がある。景観というのは「きれい」「汚い」だけでは測ることができない。
- ・愛着がある景観というのは、人工的なきれいな景観というわけではない。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・向島地域には長屋があるが、構造的な問題などもあり、そのまま残すのは難しいと思うが、向島特有の景観として、雰囲気をもどのように継承していくのが問題になると思う。

施策132 水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる

■指標の設定について

- ・区民が住みなれたまちであると感じることを指標にするのはいいと思う。
- ・「緑」というのは、園芸植物を植えて花を見せればいいというのは少し違うと思う。多くの公園では花が散ると取りかえてしまう。これが本当に自然なのかと思う。逆に見える緑という点では向島地域は「緑比率」は高くないが、見える緑は多くある。そういったことが今の指標では見えてこない。「緑視率」みたいな指標があればよい。
- ・緑被率を客観的指標と設定しているためいいと思うが、他の指標としては、水辺の体験イベント等の参加者数等が考えられる。
- ・区民が安全に利用できるような水辺延長を指標にすることもできるのではないか。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・潤いと安らぎが感じられる空間として、河岸はあるが「川の上」というものがない。水上を楽しむという考えも必要。防災や水害の面でも役立つのではないか。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・旧中川沿いの整備事業は本当に素晴らしい。区民にとっていい効果がでていていると思える。安心して安全な場となっている。

施策 211 職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める

■指標の設定について

- ・区民のすみだの街に対するアンケート結果を使っているが、本所地域・向島地域で街のイメージが異なるので、「区全体」としてのイメージがどう見えているかは非常に難しい印象である。
- ・地区整備計画区域面積を指標としているが、計画をたてることが重要なのではなく、どのように実行されているかが大切である。
- ・地区整備計画の区域面積だが、計画の策定だけではなく、達成状況を指標として加えるということが必要。
- ・まちづくりには土地の概念が欠かせない。「土地」というものに焦点を当てた指標がないので、入れたほうがよい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・「まちをつくる」という表現はあまり良くないのではないか。まちは「育つ」ものであり、行政はそれをサポートするもの。
- ・まちづくりは行政だけでなく、区民や事業を起こす人々がお互いに力を発揮していくことか必要であり、三者の力が合わさった形での10年後のすみだというものがイメージされるべきだが、行政目線のニュアンスとなっている。住環境やまちづくりというのは三者の役割や協働が必要ということがより明確に伝えられるような表現の記載があった方がよい。
- ・まちづくりの計画をたてるのはおそらく事業者がメインになると思うが、行政として計画に区民のアイデアが活きるようにすることが重要である。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・地域により課題が異なるため、区の全域について意見をまとめるのは難しい。
- ・大学等を誘致したが、ありがたい反面ワンルームマンションの増加など課題も顕在化してくる。こういったまちづくりに伴う「課題」についても施策のなかで拾うべき
- ・まちづくりの観点から困るのは、相続問題である。相続に際し、まちの実情を知らない事業者に土地が販売されており、いろいろと問題が起こっているが行政等が相談体制をつくるなど対策はできないだろうか。

施策212 多様な世帯に対応した、魅力的な住環境を形成する

■指標の設定について

- ・主観を問う指標だけであり、良質な住宅が供給されているかどうかはわからない。「必要とされる住環境に即した住宅が供給されている」ことを測る客観的な指標も設定したほうがよい。
- ・まちづくりには土地の概念が欠かせない。「土地」というものに焦点を当てた指標がないので、入れたほうがよい。
- ・「墨田区にずっと住みたい」区民の割合についてだが、実際にどのくらいの人に住み続けて、どのくらいの人が転出を余儀なくされているのかというのは比較的客観的な数値なので、指標として設定できるのではないか。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・今後の課題に老朽化したマンションの増加が見込まれることが記載されているが、高齢化や民泊等多くの課題が含まれている。

施策 2 2 1 主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する

■指標の設定について

- ・設定されている2つの指標が、類似性の高い主観的な指標となっている。客観的な指標が欲しい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・周辺整備事業とまちづくり事業が多くなっており、この事業と施策の目標である「10年後のすみだ」の関係に疑問がある。インフラの整備も必要だが、ソフト面も必要。そういった視点の指標がとれるといいのではないか。
- ・10年後のすみだを達成するために、墨田区が何をしていくのかイメージがわからない。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・指標にあるように、再開発によりきれいになったと思う反面、なじみの店が多く無くなってしまったことは残念。来外者向けにはチェーン店等もいいが、個性ある地域を活かしていくためには、この視点も考えていかなければいけない。来外者だけではなく、区民が利用していることも併せて考えなくてはならない。

施策 2 2 2 安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する

■指標の設定について

- ・道路バリアフリー整備延長だけ掲載されているが、「道路」だけではなく、駅や建物等のバリアフリーも考えるべき。
- ・課題に適合したような、高齢の方も便利に病院に行ける等の観点の指標というものがあれば設定した方がよい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・循環バスについては高齢化社会の要としてもっと注目していった方がよい。
- ・トイレ整備について、誰が利用するのか疑問に思うものもある。暗く利用し辛いトイレも存在しており、利用実績の上がないトイレもある。数量ではなく「利用しやすい明るいトイレ」という質の向上も目標としてほしい。
- ・生活弱者に配慮したまちづくりという視点が大事だと思う。そのことがみんなの安心安全につながり、将来長くここに住んでいこうと思うことの基盤になる。

施策311 グローカルに活躍できる人材を育て、技術・技能を継承・発展させる

■指標の設定について

- ・政策310に関しては、それぞれ妥当な指標が置かれている印象である
- ・事業承継の「支援」数を指標としているが、支援の結果が大事であり、どれだけ定着してくれているのかという指標も可能であれば設定してほしい。
- ・概ね適切な指標である。

■目標値の設定について

- ・「フロンティアすみだ塾への参加者累計数」については現在累計で170人となっており、2年後の目標値である187人はクリアすると思う。この事業は経営を行う上での心構え等をディスカッション形式で学びいくものであり、そのときにできた人脈や経験はいまも活かしている。その成果を測る指標や目標値が欲しい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・フロンティアすみだ塾のように事業主を対象にした施策は非常に良いと思っている。勤めている人向けの支援があってもよいのではないか。

施策312 新規参入・異分野との連携・融合を促進し、次代のものづくりを育む

■指標の設定について

- ・政策310に関しては、それぞれ妥当な指標が置かれている印象である。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・企業の規模は幅がある。大手もあれば、中小もある。墨田区ではかなりきめ細かく支援をしているように思う。これからも若手の起業家の支援の視点が重要。
- ・新しく区民になった方には、「ものづくりのまちすみだ」ということが知られていない。過去にはものづくりのまちであったことは知られているが、「現在も」ものづくりのまちであることを「発信」していく施策も必要。

施策313 「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする

■指標の設定について

- ・政策310に関しては、それぞれ妥当な指標が置かれている印象である。
- ・区内製造業における付加価値額を指標設定しているが、基本計画を策定する際には無かったデータ（RESAS）が総務省から示されている。特に強みのある産業にスポットを当てたデータを指標にすることも検討してみてもどうか。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・ビジネスサポートセンターの事業は非常に手厚いすばらしい事業だが、知られていない部分がまだまだある。「発信」も施策目標を達成するための大きな要素である。

施策321 消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める

■指標の設定について

- ・魅力あるお店は実際にあると思うが、お店に来てもらうことが目的化してしまっているいけない。特色あるまちづくりを目指すことと、魅力あるお店があることにより実際にお客さんが来て、消費も増えるため、そういうまちづくりを目指す指標を設定してもらいたい。
- ・経済センサスを基に指標の設定をしているが、墨田区の取組みの特徴的な部分が見えるのかよくわからない。

施策322 地域の資源を活かした、特色ある商業空間を創出する

■指標の設定について

- ・経済センサスを基に指標の設定をしているが、墨田区の取組みの特徴的な部分が見えるのかよくわからない。
- ・小売吸引力指数もそれをどの地域で消費しているか細かく取った方がよいと感じる。
- ・スカイツリー周辺に人が集まり、商店街が衰退していくという状態がこの指標では、測れないのではないかと思う。
- ・指標の設定基のアンケートが「イエス」「ノー」で回答させているが、本当に地域の買い物や飲食を楽しめるかどうかを測るのは難しいのではないか。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・商店街については、後継者の問題や家族構成の変化等により継続していくことが、非常に厳しい状況にある。
リーダーの育成が必要と書いてあるが、そういった人がいないのが現実である。区内のいいところを知るために区内のお店を知ってもらえない。
- ・今年度、すみだジャズフェスを北部で開催したが、仕掛け人は区外から来た人だった。きらきら橋商店街などの北部地域についても魅力的なところが数多くあるので、そこを盛り上げるため開催したが、そういう人たちをつかんでいくことが大切。

施策331 誰もが能力を発揮できるよう就労支援を展開する

■指標の設定について

- ・雇用促進就労支援事業による年間就職「決定者数」を指標として設定しているが、どれだけ継続して雇用状態にあるのかという点が加味されていないので、改善が必要。
- ・施策の目的は、区民が、「仕事をすることで、充実した生活を送れている」のかであるため、「就労者数の割合」や「区内労働者の労働人口と就業者数の比率」等の具体的な数値を指標にしてはどうか。
- ・「仕事をすることで、充実した生活を送れている」区民の割合は区外で就職している人も含まれているため、区の事業により就職している人をつかまえないのではないかと。区内事業者における働き方改革の進行状況のようなことも捕まえる等、もう少し工夫の余地がある。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・就労支援や合同面接会が雇用につながったと良く聞いているが、雇用したところで終わってしまっており、定着率は高くない。「定着」という視点も大切。
- ・女性と若年雇用が主となっているが高齢者や障害者の雇用についても加味したほうがいい。
- ・施策の目標として区内事業所に就職する人のための施策か、区外で仕事につきたい方の施策が中心になるのか、が見えてこない。
- ・雇用主のための施策なのか、働いている方のための施策なのか、施策のターゲットがわかりにくい。

施策 4 1 1 災害に強い安全なまちづくりを進める

■指標の設定について

- ・「住宅の耐震化率」のように、既に高い水準で維持してきている指標をモニタリングしていくかは課題がある。高い水準で頭打ちになってしまっている可能性もあり、このままこの指標をモニタリングしていくべきか、他の分野、例えば水害対策のように、これからの分野に切り替えていくのか、検討していくべきではないか。
- ・「耐震の基準」も時代により変わってきている。数字として達成しても、基準が変われば施策目標の達成とはならない。現に昔の耐震基準で建築した建物は現在では合わなくなってきたものも多い。

■目標値の設定について

- ・耐震化率の目標をどのレベルに合わせていくべきかの判断が難しい。説明できる明確な基準がない。なぜこの目標値なのか、目標値の考え方も明示したほうがよい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・基本計画には震災についての「燃える」や「倒壊する」が多く記載されているが、墨田区は海拔ゼロメートル地帯が多く、水害に対して弱い地域であるのに特段記載がない。
- ・不燃化率、耐震化率については、改善されてきているが、水害に関しては弱いままである。施策の目的・目標にもう少し水害の要素が欲しい。
- ・本来的には墨田区は水害に弱い地域のため、水害がベースになっていなくてはならない。下水道やポンプ場の整備により水害のリスクは減ったが、本来的な課題は解決していない。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・この2・3年大型台風による水害が多くなった。区としても台風の水害対策を念頭に置いた施策展開をしてほしい。
- ・行政の職員も水害を知っている職員が減少しており、認識が下がっている。職員に対する意識啓発も防災施策の視点に必要では。
- ・区民でも若い世代では水害に対する危機意識が低い。
- ・昔は水害について、次の世代に伝える人もいたが、現在では減少しており危機感が下がっていることに恐怖を感じる。家庭での世代間伝承が希薄になっており、区としても伝承の対策をとってはどうか。
- ・都営住宅などは1階2階を住居とせず、空にしているが、墨田区の施設は1階2階部分から部屋が入っている。こういう水害に対するまちづくりの取組を施策として評価すべき。

施策412 地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める

■指標の設定について

- ・防災関係団体は町会だけではなく、企業や施設で組織しているところもある。
- ・防災関係団体の範囲を明確にすることと、実際に動ける人員の割合を測れるようにすべき。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・指標が防災関係団体の人数となっているが、組織の年齢層は高齢化しており、災害発生時に実際に動ける人数がどの程度いるのかわからない。また、「防災関係団体」というのは何を差しているか説明がないのでわからない。定義を説明すべき。
- ・地域消火隊といっても地域により取り組む熱意に温度差があるように感じる。人数だけでは温度差は測れない。

施策413 地域で連携し、犯罪抑止力・対応力を高める

■指標の設定について

- ・「刑法犯の認知件数」とあるが、「認知」の件数で客観性は担保できるのか。
- ・町会で地域安全マップの制作事業を行ったが、犯罪を起こすのは人ではなく、環境・場所である。犯罪を起こしにくい場所を造ることが必要であるため、どのような場所が犯罪をおこしにくいかを町会で共有してもよいのかもしれない。そういった「共有」を施策の目標とし、その状態を測れるようになればよい。

■目標値の設定について

- ・「体感治安について肯定的評価をした区民の割合」とあり、平成28年度時点で22.8%となっており、中間目標値を既に達成しているものの、結果は低く感じるため、そもそもの目標値の設定が低いのではないか。もう少し高めに目標設定した方がよいと思う。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・町会に対し、「防犯に努めてください、協力してください」等の要請はあるが、具体的にどうやって防犯に努めるのか、区の施策の方向性がよく見えないことがある。区民にもう少し具体的に示してほしい。事件が発生しても、地域に何をしてほしいのかわからない。対応手段等必要な情報は流してもらいたい。
- ・防犯カメラ助成事業を展開しているようだが、どの程度効果が出ているのか、どのように使われているかわからない。

施策 4 2 1 福祉に対する理解を深め、地域活動への参加を促す

■指標の設定について

- ・地域福祉を進める上で大切なことが4点ある。1点目は行政内部の連携がどのように進むか。2点目は包括支援センター（窓口にいけば相談にのってもらえる・専門機関につなげてもらえる）が配置されていること。3点目は住民参加（プラットホーム）。4点目は福祉教育。各行動計画は発達しているが、それぞれの連携に課題があるため、それぞれの主体が地域福祉について話し合いをする場面が必要であるが、知らせる機会が少なく、普及の点で課題がある。各事業・主体同士の連携も施策の目標と捉え、それらが測れる指標があればよい。
- ・「現在ボランティア活動・地域活動をしている」区民の割合としているが、「ボランティア」とはどのようなボランティアを指しているものかがわからない。指標とするのであれば、地域福祉についてのボランティア活動等「ボランティア」の定義を明確にすべき。
- ・「ボランティア」と同じく「地域活動」についても定義を明確にすべき。人により解釈に差が出る可能性がある。
- ・アンケートの設問における用語等の定義があいまいになっており、回答者の取り方により回答がかわってしまうのは問題である。指標とする以上、言葉の定義はしっかりしたほうがよい。
- ・施策の中で、地域福祉に関する理解や理念を知っている区民の割合のような意識啓発的な指標が抜けている。

■目標値の設定について

- ・「見守り」等も大事な地域福祉であり、大事なボランティア活動である。しかし、「福祉」というと給付のイメージが強く、見守りが福祉と認識していない人も多い。この意識が区民に広まると、この指標の結果はかわってくる。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・本来的に「地域福祉」とは、町会等で行う福祉活動こそが地域福祉そのものであると思うが、ボランティアを行っている当事者はその認識がない。アンケートだけではどこまで実態を拾えるか疑問である。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・「ボランティア」については、施策4 2 1に限らず他の施策においても掲載されているので、定義を整理する必要がある。広くとらえれば町会・自治会の役員職もボランティアの一貫であり、定義を明確にしなければ回答が左右する。
- ・町会の皆さんは元気な方が多いので「福祉」というと、生活保護などのイメージが強く、少し他人事な感じがしている。「地域福祉」についての理解を促すことも必要である。

施策 422 利用者のニーズにあった地域福祉サービスの質と量の向上を図る

■指標の設定について

- ・後見人は専門性が求められる反面需要に対し供給が追い付いていないが、墨田区では「市民後見人」として区民の中から選出して活躍している点が大変特徴的である。将来的にも「市民後見人」制度は大変重要性が高く、現状で数としては多くはないが着実に取り組んでいくことは必要なことである。地域の特性も反映できており、客観的な指標としてすばらしい。
- ・この施策のページに記載してあるから「サービス」が地域福祉を指すとわかるが、アンケートでは回答者がそうとらえているか疑問である。言葉の定義を含めてアンケートの取り方を工夫すべき。
- ・高齢者だけではなく、利用者のニーズにあったということで、例えば児童や保育サービスなども入ってくるのか。それによってアンケートの仕方や対象も変わるのでは。
- ・「市民後見人」については、ほとんどが高齢者であり、障害者は一部となっている。この指標だと高齢者福祉よりな指標となるのでは。
- ・「地域福祉」を高齢者福祉や障害者福祉とあえて分けて施策を設定しているのであれば、例えば高齢者の地域包括センターが整備されている・知っているという割合を指標とした方が、地域福祉の視点では施策が進んでいるとわかりやすい。
- ・市民後見人が高齢者を対象としているものであれば、政策430の指標になるのではないか。施策422については、もう少し幅広い包括支援センターのような指標にした方がよい。施策の「利用者のニーズにあった」ということが高齢者以外も含むのであれば、広く捕まえる指標が欲しい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・軽い認知症の発見とアプローチには周辺の人々と関係が色濃くないと気付けない。地域に暮らす人同士がもっと深くかかわることも地域福祉には重要。
- ・施策421のボランティアや人づくりといった「担う人」の施策に対して、施策422は突然個別具体的な施策目標となっていると思う。この施策では、個別具体的な事業の話ではなく、地域で受入れる体制ができていくか等を施策の目標として見ていくべきだと思う。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・市民後見人を必要とする人は多くいると思う。家族と別居している高齢者も多く、その場合は、たまに家族が会っても軽い認知症だと普通の生活ができていたので気付かないことも多々ある。本来的にはもっと潜在的なニーズが多いはず。
- ・成年後見制度利用支援事業に限らず施策を重複しているものはある。成年後見制度利用支援事業については、施策430以降にもかかっている。権利擁護の視点であれば施策422に該当する。

施策 423 生活に困った人を支え、自立を促す

■指標の設定について

- ・生活困窮者を自立させるという施策目標が、「被保護者社会参加促進事業におけるボランティアへの年間参加人数」という指標で成果が測れるのか疑問。ボランティアに参加を促すことと「生活に困った人を支え、自立を促す」ことの因果関係が弱い。生活困窮者自立支援事業を受けたうえで自立した人数を数値にするなどした方が客観的な指標としてよいのでは。
- ・長期的な目標をたてるのは難しいが、現在生活困窮と認識している人数や生活困窮者自立支援事業を受けている人数、自立した人の人数などの「実績」の数値が指標として使えるのではないか。
- ・保護率等の客観的な指標も研究してほしい。
- ・区のケースワーカーは非常に熟練しており、受給者に対する生活指導が素晴らしい。単に保護の受給数ではなく、受給者の生活の質の向上具合が指標として取ればよい。
- ・家屋を所有しており、生活保護を受けられない困窮者も墨田区は多いのではないか。「生活に困窮」しているが、生活保護を受けられていない人も施策の対象とし、そういった人を把握できる指標が欲しい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・生活保護を受けられない困窮者も施策の対象としてしっかり対策をしなければ、生活保護受給者に対する風当たりが強くなる

施策 424 消費者の自立を支援し、安心・安全な消費生活を守る

■指標の設定について

- ・指標としてはアンケート調査を基に2つ設定されており、どちらかといえば主観的な指標となっている。
- ・客観的な指標が設定できないかと考えたが、消費者問題というのは難しく感じる。消費者問題に取り組んでいるのは行政だけではないため、対象が広すぎる。
- ・行政が消費者問題の減少を施策の目標としているのであれば、被害件数の推移の減少等の数字が客観的な指標となるのではないか。
- ・特殊詐欺まで消費者問題に含めると「防犯」もかかわってくるので、線引きを考慮すべき。
- ・消費者センターの相談件数などは客観指標にならないか。また、消費者センター啓発事業の件数なども指標になるのではないか。
- ・施策目標の達成には消費者教育が大事なので、それを客観的に測れる指標が望ましい。
- ・何らかの客観的な指標が望ましい。

施策 431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する

■指標の設定について

- ・施策の目標である充実したセカンドライフを測る指標として「生きがい」を設定しているが、高齢者といっても悠々自適に趣味や余暇に時間を持て余している人は少ないのではないか。職人などは生涯定年がないし、働き続けざるを得ない人も多くいると思う。所得があつて悠々自適な人と、働き続けている人とは「生きがい」に関する意識は大きく変わる。
- ・定年を迎え、退職した人もシルバー人材センターを利用せずに改めて元の雇用先に雇い入れをお願いしているケースもある。シルバー人材センターだけの人数を指標としたのでは、そういった人たちの実情は測れない。
- ・シルバー人材センターの会員数が現状として減っているのであれば、実就労者数は指標としては馴染まないのではないか。
- ・生きがいを感じられる仕事に就いていることに意義があり、シルバー人材センターに所属することが必須ではないと思う。働く手段は様々あり、自営業もあるため、シルバー人材センターのみ取り上げるのは指標としては範囲が狭いのではないか。
- ・生きがいを感じる方法は就労だけではなく、趣味でもいいと思う。指標は客観的な指標が望ましいが、いきがいを感じるような活動をしたなど、仕事に限定せず主観を聞く方法も必要ではないかと思う。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・シルバー人材センターの職種は増えているのか。軽作業しかなければ、魅力を感じず、あまり利用しないのではないか。施策として新たな職種を広げていく視点が必要ではないか。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・シルバー人材センターで紹介されるものは軽作業だという認識があるため、利用しない人が多くいると思うが、様々な職種があれば利用してみようと思う人はいるはずである。更に以前働いていた職種につながるのであれば、より利用が増えるのではないか。

施策 432 高齢者の自立した生活を支援する

■指標の設定について

- ・適切な指標であると考える。

施策 4 3 3 高齢者の地域包括ケアを進める

■指標の設定について

- ・認知症の方が増加している中でそれをサポートする方の数を増やしていかなければならないという方向性から施策4 3 3の指標が設定されていることは理解できるが、認知症サポーターの利用者数自体を測ってはどうか。
- ・「地域で介護について相談できる環境が整っている」という区民の割合はアンケートを基に指標の設定を行っているが、アンケートの対象が高齢者だけではない。現在介護を利用していない若い世代では、現実感が薄い可能性が高いため、世代により回答に差が出る。施策の対象である利用者（高齢者）がどのように感じているかを調査し、指標に設定した方が望ましいのではないか。
- ・認知症サポーターの「数」を指標としているが、サポーターの「活動」のほうが重要で、そこの活動が測れるとよい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・昔からある町会等に住む方々は日頃から顔を合わし、お互い知っているので地域の見守りもある程度築かれているが、マンションが増加している中で、マンションと地域の関わりの希薄が課題になってくると思う。この施策ではマンションの住民をどのように地域福祉に取り込んでいくかが重要。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・例えばカバーするエリアや見守りをする人の数や、逆に孤独死の数など見守り取り残されている事例など、見守り等に関する客観的な指標があればそれを設定すべき。

■指標の設定について

- ・指標「介護老人福祉施設入所待機者数」としているが、施設の充足率は取らないのか。指標として、施設に入れない（待機者数）を設定した方がよいのか、入れる場所（受入数）を設定した方がよいのかという判断にはなるが。墨田区はアパートを借りたり多様な方法で取り組んでいるので、定員数など受け入れの体制を指標にしてもよいのではないか。
- ・「高齢者になっても墨田区内で暮らし続けることができる」と思う区民の割合のデータ基が全年齢を対象にしているアンケートなので、該当年代に対するアンケートに限定すべきではないか。若い世代は自分の事として受け止めないので、回答に意味があるのかどうか疑問。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・施設入所等により町内からいなくなっていたりする場合もあり、地域が地域の高齢者のすべてを把握するのは難しい。施策の目標として地域が高齢者のことを知っていることが大事である。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・町会の加入率は客観的指標として使える。どこか適当な施策の指標にできないか。

施策 4 4 1 障害者の自立した生活を支援する

■指標の設定について

- ・「区内障害者グループホーム居室数」という指標について、施策目標の達成のために障害者グループホームを増やすことが説明されていない。「自立」という施策目標に対して、「グループホームを増やす」ということが直接結びつかない気がする。
- ・指標の「目標数」と施策目標との関連性が不明。

施策 4 4 2 障害者の社会参加を支援し、生きがいを創出する

■指標の設定について

- ・「離職者数」という表現がわかりにくい。就職者数（全体）が多くなると離職者数も増えるため、「離職率」の方がよいのでは。全体の数が多くなると離職者数も下がるので。
- ・作業所の利用者数なども指標となるのでは。
- ・障害者の職づくりなど、社会的起業に取り組んでいる団体の数なども指標として考えられるのでは。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・これまでになかった「見た目」問題というのも最近話題となっている。基本計画のどこの施策にも属していないので、どこかの施策で取り上げてほしい。

施策４５１ 区民みずからが健康に暮らせるしくみをつくる

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・食育の全国大会で施策が大きく展開していくと思っていたが、その後が見えてこない。せっかく花火をあげたのならば、その勢いを利用して施策を展開してほしい。子育ての施策とミックスして子どもへの食の重要性を伝えていくなど、施策横断的な取り組みも考えられる。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・食育にはPRも必要。広報と連携していくことが大事である。

施策４５２ すべての親と子の切れ目ない健康づくりを支援する

■指標の設定について

- ・「健康維持・検診等の母子保健サービスが充実している」と思う区民の割合は区民アンケートが出所となっているが、世代や性別で答えが大きく変わってくるので指標の数値として扱うには注意が必要では。
- ・たくさんの事業を行っているが指標は包括的であるので、この指標でよい。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・(子育て施策全般にいえることだが) 施策の対象を「母子」としていることが多いが「父子」家庭も厳しい状況にある。施策の対象として、もう少しクローズアップしてもいいのでは。

■その他関連意見（施策関連事業等）

事業の展開も大変すばらしく、成果も出ている。

施策４５３ 保健衛生における安全と安心を確保する

■指標の設定について

- ・「保健衛生における安全・安心の確保」という施策目標に対して、「身近なAED設置場所を知っている」区民の割合という指標の因果関係が弱い。感染症・食中毒の発生件数など、客観指標も多くあるのでは。
- ・「手を洗う」よりは保健衛生における知識の向上や意識が普及している状況などを測る指標が望ましい。
- ・指標でAEDの場所を「知っている」ことを重視しているが、知っていても24時間使えないAEDも多い。AEDが常に使えるような状態でなければ、「知っている」という指標だけでは施策目標は測れないのでは。
- ・インフルエンザの予防接種の手紙等を受け取ることがあるが、どの程度利用されているかという接種率なども指標として考えられる。

- ・施策の課題としてはペットの問題も割合として大きいですが、今の指標では把握できない。ペットに起因する健康被害という視点もある。ペットの健康被害について、客観指標がつくれればよい。
- ・客観指標はいろいろ設定できそうだが、対象が多すぎて数が増えてしまうのかもしれない。
- ・公衆衛生において十分周知されてきており、すでに高水準を維持できている事業と、例えば結核など最近増えてきているようなものという感じで事業に濃淡がつけられるのであれば、その重点事業に活動を客観指標として設定してもよいのかもしれない。
- ・施策453については、指標を見直した方がよい。

施策454 地域の連携を深め、保健医療体制を確立する

■指標の設定について

- ・「かかりつけ医等をもつ区民の割合」は大事であり、適切な指標だと思うが、もうひとつの指標「在宅医療の満足度」については、墨田区として在宅医療に限定していることに疑問を感じる。必要なときに必要な医療サービスを受けることができることが大事であり、「在宅」に限定しなくてもよいのでは。
- ・かかりつけ医、歯科医、薬局となっており、整形外科が入っていないが、整形外科は利用者数が多い。これを指標として考えられないか。
- ・在宅医療の推進を図る指標が「満足度」だけでは不十分である。満足度だけあげても、施策の目標達成とならない。在宅医療の利用状況や利用可能性などの数値が取れるならそういった指標のほうがよい。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・保健医療分野におけるビッグデータ活用事業にマイナンバー制度等のデータの活用を図ると記載があるが、病歴は個人情報であるので、慎重に考えてほしい。

施策４６１ 必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる

■指標の設定について

- ・「子育てしやすいまち」と思う区民の割合とあるが、施策が「必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる」となっていると、利用者が必要なタイミングでサービスを受けられているかどうかという点で指標が取れないか。客観的な指標が難しいのであれば、アンケートで個別具体的なサービスを利用できたかどうかという実績を聞いてもよいのではないか。
- ・施策４６１については、子育て世帯に限ったアンケートをしたほうが良い。

施策４６２ 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる

■指標の設定について

- ・指標として問題はない。
- ・子育て施策は非常に充実しており、国の制度が頻繁に変わる中で区もよく対応している。保育定員もそこまで増やしてよいのかと思うほど増やしている。児童館事業は国が撤退している中、墨田区は独自に取り組み、成果も出ている。これは区の協治（ガバナンス）の考え方の元、区と区民・事業者がともに考えて実行してきたからであり、この取り組みを何らかの形で評価・検証した方がよい。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・公園などを見ても遊んでいる子どもが多く見られる。他の地域ではあまり見られない光景だと思う。このような環境を維持する施策展開を図るべき。
- ・この施策を考えるうえで放課後児童対策事業等の問題は大変重要となってくる。
- ・学童クラブ事業は、地域の元気なお年寄りなどと協力しながら展開すると質や効率が向上するのではないか。若い世代では年中行事など地域の資源を活かしたプログラムを組むことが少し苦手なので、高齢者と協力するメリットは大きい。

■指標の設定について

- ・主観指標だけだが、虐待と思われる通報件数といった客観指標のほうがよい。ただし、通報件数を少なくすることが目的化し、通報をするなどならないように気を付ける必要がある。
- ・もう少し客観的な指標が取れるとよい。
- ・子どもの「自殺ゼロ」・「虐待数ゼロ」などの客観的な指標も検討すべき。
- ・全く利用できなかったなど、ネガティブな意見も指標として大事ではないか。
- ・墨田区の子育て施策は手厚いと思うが、家庭環境等によりニーズはかわると思う。それをきめ細かに拾える指標があれば望ましい。
- ・墨田区はすでにサービスは十分ある。あとは、利用者が特定の場所に行って初めてサービスが受けられるのではなく、必要とする人とサービスを積極的にマッチングさせることが重要。その場所に行かなければ受けられないサービスからの改善に取り組んできていると思うが、今の指標ではそれが見えない。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・ひろば事業は「来所」を前提としており受け身になっている。開館時間にいけない人も多いため、「バーチャルひろば」みたいなものも今後は必要になるのではないかと感じる。場所・時間に関係なく利用できるサービスも検討していくべきではないか。
- ・欲しい情報を探し出せないということもある。そういった場合にサポート（教えてあげる）体制も必要ではないか。広報を見てくださいだけではだめ。

施策４７１ 意欲をもって学び、協働的に課題解決できる確かな学力を育む

■指標の設定について

- ・学習状況調査の指標は、子どもの成長に着目した指標にはなっていない。小６・中３という対象学年に着目した定点観測になっているが、その子供の成績がその後伸びたかどうかという成長を追跡する視点も大事。各学年によって成績にばらつきがあるので、定点観測でいいのか疑問である。
- ・本来的には生徒個人に着目して、その生徒がどのように成長し成績が良くなったかということを見るべきだが、現場ではこの学年毎の成績という数字の影響力が大きくて、学校にもプレッシャーとなっている。
- ・「いつもこつこつ学習している」という質問であるが、「こつこつ学習している」というのは基準なり定義なりはあるのか？人によって解釈が変わるようではいい質問ではない。
- ・成績の変化率というような指標を設定できればよいのかもしれない。
- ・子どもの成長に着目した指標も考えるが、施策の指標としては細かくなってしまう。その指標は学力向上推進事業等の個別の事務事業評価でしっかりと把握・活用できるとよいのではないか。
- ・ネガティブな指標は難しいとは思いますが、いじめゼロや不登校ゼロなどを指標とできないか。「こつこつ学習している」よりは客観的な指標になると思う。

■その他関連意見（施策関連事業等）

施策目標で使われている「課題解決」、「確かな学力」という謳い文句は素晴らしい。ただし、その言葉の意味する施策の具体的方向性があいまいであり、一見偏差値学級のように受験勉強のための学校という風にも見えてしまう可能性がある。

施策４７２ 子どもの個性を活かし、健やかな心とからだを育てる

■指標の設定について

学習状況調査の指標は、子どもの成長に着目した指標にはなっていない。小６・中３という対象学年に着目した定点観測になっているが、その子供の成績がその後伸びたかどうかという成長を追跡する視点も大事。各学年によって成績にばらつきがあるので、定点観測でいいのか疑問。

■指標の設定について

- ・施策の目標は良いが、それを測る指標となるとすこし工夫の余地がある。全体を通して言えることだが、アンケートの設問をもっと工夫すべきではないか。例えば施策 4 7 3 の指標として「区立小中学校が地域と十分に連携している」と評価する区民の割合が設定されているが、主体的に子どもたちが参加しているか等の実感・子供たちがどう感じているかを聞くようなアンケートが良いのではないか。アンケートに回答している区民が誰なのかわからない。
- ・「区立小中学校が地域と十分に連携している」と評価する区民の割合については、学校に調査しても良いのではないか。区民一律に調査すると、教育に対する興味の有無や、子どもや孫がいる・いないにより回答が大きく左右されると思う。
- ・「授業中に I C T（情報通信技術）を活用して指導することができる教員の割合」とあるが、適切な指標ではないと感じる。指導する教員が配置されていても授業に還元されていないと意味がないため、割合を指標とすることに疑問がある。教育において I C T の活用は重要なかもしれないが、施策 4 7 3 の指標とすることには疑問がある。
- ・「地域に開かれた魅力ある学校環境をつくる」の指標として「授業中に I C T を活用して指導することができる区民の割合」はおかしいのではないか。I C T の目的は「学力を育む」ことが目的と考えるので、そちらの施策の指標のほうが良いのでは。
- ・教員の異動スパンが短く赴任先の「地域」を学ぶ期間がない。それでは地域に根差した学校教育を行うことはできないのではないか。地域に開かれた魅力ある学校環境というのであれば、教員への働きかけを施策の取組に取り入れるべき。
- ・押上小学校は学校を積極的に開放していこうとするモデル校であったが、現実的にはほとんど開放されていない。地域に開かれた学校を測る指標として学校施設が使用されている利用率などを設定してはどうか。

■目標値の設定について

- ・学習指導要領の中でコンピュータに関して教えなければならないというようなものがあるのではないか。あるとすると現状値 7 割というのは問題があるのではないか。

■指標の設定について

- ・「家庭教育を実践できている」区民の割合とあるが、「家庭教育」を定義付けしていないと受け止める区民の受け取り方により結果が左右される。
- ・施策474の指標で「地域での子どもの健全育成活動に参加している」区民の割合となっているが、「健全育成」とは学童クラブに参加していることを聞いているのか、イベントなどに参加している場合も含むのか。健全育成活動の定義がわからない。
- ・「地域の健全育成活動」というボランティアの供給量に着目した指標であるが、ある程度の専門性も必要だと思う。質の担保も含めてボランティアに任せるのではなく、スクールカウンセラー等の専門家も活用すべきである。そういった意味で、スクールカウンセラーの配置割合も指標となるのではないか。

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・施策473と474は密接な関係にあると思う。地域に開かれた学校と地域の教育力はどちらも相互作用があり、どちらかが欠けてもむずかしい。
- ・我々の子どもの時代と比較して先生の負担が増えている。先生はもっと子どもに視線を向けたいの、親や周囲の視線も意識して行わなければならないため、やりずらさもあり、学校のストレスはかなり高くなっていると思う。そういった先生の負担を減らすことにより先生はもっと子供に向き合える。そういった施策の目標も必要だと思う。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・子どもや親に挨拶をしても返ってこなくなってきた。地域の関与を極力避けている人が増えている中で、地域で子どもを育てるとするのは難しい。地域に対して、地域で子供を教育する必要性を理解してもらう施策の取組も必要。
- ・学校に学童クラブがあることも学校選択の一つの要素になってきている。学校環境の施策と放課後居場所づくりの施策は密接に関係する。
- ・子どもたちの放課後の過ごし方も変化してきている。その中で「放課後」を誰が守るのか、校庭開放で守るのか、学童クラブや児童館で守るのかはたまた、そういったものが一緒になってみんなで守っていくのかを検討する「会」が必要であり、施策の方向性にも反映するべきである。
- ・現在すべてボランティアが担っているが、地域も忙しい。各学校に一人でもそういった職員が配置されていれば違うと思う。ボランティアの活用とはよく言うが、それだけではないと思う。
- ・放課後の問題は福祉と教育の谷間の問題であるため、連携を築くことが大事であり両施策の橋渡しが必要。

施策 481 地域にやさしい、環境に配慮した暮らしをともにつくる

■指標の設定について

- ・ 2 つとも客観的な指標となっているが、指標の「環境ボランティア登録者の実働割合」は登録総数（母体）がわからないので、適切か判断できない。
- ・ 「温室効果ガス排出量の削減割合」が平成 12 年度比としているが、今後も平成 12 年度の数値をずっと使っていくのか。平成 12 年度では少し古いのではないかと思う。
- ・ 今後はゼロ・エネルギー・ビルへの取組割合なども概念として求められてくるので、今後指標としてみてはどうか。
- ・ 公害・温暖化の指標は工夫すべきではないか。

■目標値の設定について

- ・ 環境ボランティアの登録者数が 64 人では少なく感じる。

施策 482 環境の保全や改善に努める

■指標の設定について

- ・ 「騒音・振動に関する区民の環境評価点」とはなにか、説明がないとわかりづらい。
- ・ 「騒音・振動」に着目しているが、騒音・振動だけではなく環境基準全体の指数がでるので、もう少し工夫してみてはどうか。例えば騒音・悪臭の苦情件数なども取ることができると思う。また、指標に「苦情があった特定建設作業の割合」となっているが、特定建設作業だけでとるのはピンポイントすぎるのではないか。

施策 483 廃棄物を減量し、循環型社会を実現する

■指標の設定について

- ・ 消費活動というか、例えば買い物袋を減らす等区民にとって身近な活動を指標とできれば良いのではないか。
- ・ 区民が実感できるような「太陽光発電を取り入れているか」、や「断熱をしているか」等の指標を設定してみるのも良いのかもしれない。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・ 施策 483 の個別収集サービス事業は高齢者や障害者などの家庭の玄関先まで収集しに行ってくれるという素晴らしいものであるが、集合住宅等においては、集積所が無いため、一般的な世帯に対しても個別収集サービスを行っているのを見かける。施策の目的に立ち返ると過剰とも考えられる。集団集積所周辺では土地も売りにくくなるという問題があり、難しいところではあるが。
- ・ 施策 483 の今後の課題欄に「第三次循環型社会形成推進基本計画」の記載があるが、現在は第四次基本計画が策定され、その中でゴミの収集については記載されている。
- ・ 環境問題においては先端的な環境施設が無くなってきており、ソフト的な「運動」だけになっている。啓発において拠点となる場は大事。

施策511 地域や多様なコミュニティを支える人材・団体を育てる

■指標の設定について

- ・コミュニティ活動に参加する指標として町会・自治会加入世帯数を指標としているが、様々な活動に参加することは町会・自治会に限らないので、加入世帯数を指標と設定するのはどうか。区の入力方にもよるところであるが、連携稼働する「場」の数や「参加者」数を指標として設定した方がよいのではないか。
- ・加入世帯数よりも加入割合とした方がより良いのではないか。
- ・実際に加入世帯数を把握するのは難しい。町会としても何世帯あるのか把握できていない実態がある。
- ・加入世帯数には違和感がある。墨田区全体の世帯数の増減にも影響されてしまう。
- ・施策の対象として町会だけではなく、専門的なコミュニティやPTA、保護者会なども巻き込んだ取組が良いのではないか。
- ・データの出所の区民アンケートの聞き方と指標が少し違う。質問と指標を変えるのであれば、もう少し解説を加えたり例示を示したりして説明した方がよい。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・地域力を高めていくには、様々な人が関わってくれることが必要。それぞれの専門性もあり、いろいろなことができるようになる。
- ・施策511、512は妥当な指標の設定がなされているが、施策513は変えた方がよいのではないか。

施策512 地域や多様なコミュニティを育む場や機会を増やす

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・「コミュニティ活動」といっても様々で定義があいまい。コミュニティ活動として墨田区とは関係ない活動に参加している人もいるし、墨田区の活動はしていても商売として活動しているものもある。
- ・コミュニティ活動の考え方の中には社会的企業という視点も考えなくてはいけない。
- ・町会の役割として2年間、神社の行事に参加するという制度があるが、昔からある町会などは、高齢者が参加することが多いが、自治会などに声をかけてお願いすることもある。こういう取組は地域活動に参加する良いきっかけになっており、他にも様々なきっかけがあると思う。そういったきっかけをうまく施策の取組に取り込んでいければよい。

施策513 地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる

■指標の設定について

- ・施策513は「外国人にとっても暮らしやすい」としているので、外国人向けのアンケート等が取れば適切な指標となるのではないか。
- ・今の指標は提供者側の指標となっているため、暮らしやすいと感じているかわからない。
- ・生活しやすさというのは言葉だけの問題ではない。課題がありすぎると思う。例えば、外国人向けに子育てしやすいですか。などのアンケートもとれるのではないか。現在設定されている指標だけを見れば暮らしではなく、観光客向けの指標となっている。

- ・施策513の指標としては暮らしやすいと思う外国人の数を取るなどの方が望ましいと思う。
- ・例えば、子育てや仕事上の問題など外国人の生活上の課題を世代ごとに認識していく必要があるのではないか。アンケートの取り方、対象を絞るなど工夫も考えられる。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・町会の活性化のためには、町会が自主的に収入を確保できるような取組も必要。例えば、町会会館は税金の関係があり、区にお預けしているような形になっている。その区の施設であれば営利活動ができない。資産の有効活用の観点からもう少しうまく活用できればいいと思う。
- ・施策511、512は妥当な指標の設定がなされているが、施策513は変えた方がよいのではないか。

施策 5 2 1 区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる

■指標の設定について

- ・「学習活動」とあるが、アンケートだと「生涯学習活動」となっているので、説明を入れないと同じものであるかわからない。可能であれば例示を挙げた方がわかりやすい。
- ・客観的な指標は難しかったのか主観的な指標のみになっている。利用者数等の客観的な指標であれば設定できそうに思う。
- ・生涯学習といっても消費者講座の受講やPTAでの講座など様々なものが該当するため、利用者などの客観指標は難しく感じる。
- ・アンケート対象が20歳以上。子どもたちの活動も大事。アンケートの指標をとるときに、子どもたちもアンケート対象にしたほうがよいのでは。

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・生涯学習は情報発信が難しい。「イベントをやります」と言っても参加する方は検索するのも難しい。区民が情報へアクセスできた数などが指標として考えられるのではないか。

施策 5 2 2 区民が自由にスポーツを楽しむ機会をつくる

■指標の設定について

「週に1回以上運動・スポーツをしている」成人区民の割合とあるが、高齢者などターゲットを絞った指標とすることができないか。

施策532 男女共同参画を推進する

■施策の目標（指標との関係等）について

- ・最近では男女共同参画からLGBTのような話がでてきており、施策として「男女」というくくり以外も考慮していくべきではないか。

施策533 国際理解を深め、平和への意識を高める

■指標の設定について

- ・533の施策については、友達と思える外国籍の人はいますか等の指標でもよいのでは。
533の指標で「コミュニケーション」の定義がわからない。コミュニケーションの中身を限定して聞く必要があるのかもしれない

施策 5 4 1 情報を戦略的に発信し、多様な主体と共有する

■その他関連意見（施策関連事業等）

- ・施策 5 4 1 の指標で「墨田区のホームページ訪問者数」としているが、ホームページだけではなくツイッター等他の SNS の数値に広げるべきではないか。

施策 5 4 2 区勢への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する

■指標の設定について

- ・「区政全般に対する区民の満足度の点数」のデータ出所のアンケートの設問が 1 0 0 点満点でいうと何点ですか。となっているが、このような左端 0 点、右端 1 0 0 点で丸を付ける方式だと、中央に丸を付ける方式が多い。質問もしくは回答方法を工夫した方がよいのではないか。
- ・「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合となっているが、実数がわからない。パーセンテージはなじまないのではないか。
- ・「区民とともに作り上げた施策の割合」のような行政側から見た指標が良いのではないか。イベントの企画というのは誰でもできるものではないのではないか。
- ・回答者が回答に悩む質問だと思う。

III 委員感想 ～委員会に参加して～

■倉阪会長

今回、墨田区基本計画のすべての施策について、施策の達成を図る指標の妥当性を中心に議論いたしました。私は、今回初めて墨田区の政策に触れたのですが、基本計画の内容や委員のご意見を伺う中で、しっかりと地域コミュニティが息づいている墨田区の特長を感じることができました。今回の議論が墨田区の政策の改善に生かされるようお願い申し上げます。また、墨田区には、今後、千葉大学のキャンパスが設置される予定と聞いています。千葉大学生が、墨田区の良さに触れ、若い感性との相乗効果が生み出されることを期待します。

■高橋副会長

今年度の区民行政評価は、事務事業の上位にある施策を対象として成果指標の妥当性についての審議を行うということで、事務事業評価を基にその上位にある施策はどのような視点で評価されるべきかといった問題意識をもってとても興味深く関わらせて頂きました。成果指標の設定は、区が実施する施策の成果・効果を適切に評価し、今後さらに効率的・効果的な行政サービスの実施を行っていくための重要なフェーズであると認識しています。本会においては区民委員の皆様・倉阪委員長と多様な視点から有意義な議論が出来たと感じています。本審議結果が今後の墨田区の行政評価制度の見直しや平成32年度以降の基本計画の改定にしっかりと反映され、より良い区政の実現に繋がっていくことを期待しています。

■小林委員

この度は、「平成30年度区民行政評価委員会」に参加させて頂き、誠にありがとうございました。私自身にとって、非常に多くの学びを得る事が出来た大変貴重な機会となりました。

今まで、区の政策に興味のあること以外は真剣に目を通す事や考える事は、正直ありませんでした。

今回多くの施策に触れる事で「経営者目線」「父親として」「墨田区民として」どれだけ身近にあり普段生活する中で重要な事かを改めて気が付きました。

また、御一緒させて頂いた委員の皆様の活発な議論と鋭い視点を聞くことが出来た事も、非常に貴重な経験となりました。

今回、本当に微力ではありますが私なりに真剣に向き合い発言させて頂いた事や他の委員の皆様の大変貴重な意見が反映される事で、墨田区が誰にとっても益々住みやすい良い街になる事を切に願います。

今回、このような機会を頂戴した事に心から感謝いたしまして、感想とさせていただきます。ありがとうございました。

■佐原委員

行政評価委員会に参加させていただき、行政の分野の多様性に驚くとともに、統計データ等を参考に、日々行政の成果を向上させていこうという姿勢に感服しております。私もまちの一員として、町会・学校・NPO等の活動に参加をしておりますが、行政との協力・協働の大切さを再確認させていただきました。ただ、統計の数値が実態を本当に反映しているのか？数値が少ない事柄は問題が本当に解決しているのか？統計数値はかなりの部分、質問などの設定条件で様変わりしてしまいます。職員の皆さんが地域に出向き、数値情報が実態のどのような部分を反映しているのか、チェックすることも、行政の職員にとって大切な仕事と思いました。

■野原委員

行政評価委員会に出席して、私は、ガバナンス（協治）をすすめるシステムを知った。それを本気ですすめようとする行政執行者の開かれた姿勢に接した。評価には知識と技術と良識、その蓄積が必要と思う。今回評価がどの水準のものか客観的に推し量る力量は私にはない。自画自賛をするつもりはないが、私を除いて、的確な人選がされ、限られた時間の中で、委員長を中心とした機能集団ができていたと思う。根底には墨田区、その住民に対する敬愛があった。



前列 左から 倉阪会長 高橋副会長
後列 左から 小林委員 佐原委員 野原委員

